

「心ある医療」の充実に向けて

地域の先生方には、日頃より春日部市立医療センターをご支援いただき、また多くの患者さんをご紹介いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

2026年7月、当院は新築移転10周年という大きな節目を迎えました。この10年間を振り返ると、最も大きな出来事は2020年からの新型コロナウイルス感染症への対応でした。「地域医療を止めない」という強い使命感のもと、全職員が一丸となって診療体制を維持し、地域の急性期医療を支え続けてきました。

その後も地域医療の充実に向けた取り組みを推進し、2022年にはHCユニットを開設、2023年には地域周産期母子医療センター、災害時連携病院、紹介受診重点医療機関の指定を受けました。私は2024年4月に病院長を拝命し、同年には病院機能評価を受審し、翌年に認定を取得しました。また、2025年には緩和ケア病棟を開設し、急性期から在宅・終末期へとつながる切れ目のない医療体制を整備しております。

さて、春日部市内の先生方から当センターへご紹介いただく患者数は年々増加しており、地域医療連携の成果を実感しております。しかし、地域の基幹病院として持続可能な医療提供体制を維持するためには、さらなる紹介患者数の増加が大きな課題であり、その実現には先生方との一層の連携強化が不可欠です。

当センターでは、迅速な受入れ、質の高い専門医療、丁寧な情報提供と逆紹介を徹底し、地域完結型医療の実現に努めてまいりますので、今後とも、春日部市立医療センターへの変わらぬご支援、ご紹介を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

春日部市立医療センター 病院長 有馬 健



前立腺がん診療センターのご紹介

前立腺がんの診療には、病期や患者さん一人ひとりの状態に応じて、手術、放射線治療、薬物療法などの高度で専門的な医療を適切に選択・提供することが求められていることから、院内に前立腺がん診療センターを設置し、専門診療科が緊密に連携することで、質の高い診断・治療を迅速かつ円滑に提供する体制を構築しています。

前立腺がん診療では、多職種の医療従事者が密接に連携し、受診の申込時から診断、治療、治療後の経過観察に至るまで、一貫した診療体制を整えています。PSA検診で精密検査を勧められた方をはじめ、前立腺がんと診断され治療をご検討中の方、治療方針について専門的な意見を希望される方、さらに進行・再発前立腺がんに対する専門的治療を必要とされる方まで、あらゆる病状に対応いたします。

前立腺がん診療センター長 蜂矢 隆彦



強度変調放射線治療（IMRT）を開始しました

当センターでは高精度放射線治療装置「リニアック」として、米国バリアン社製の汎用型医療用直線加速器「TrueBeam（トゥルービーム）」を導入しています。

高精度放射線治療の一つとされる「強度変調放射線治療（IMRT）」は、予め患者さんの体内のがん病巣についてサイズや形状、位置といった情報を詳細に画像診断したうえで、その条件に合わせて照射する放射線の強度を適宜コントロールしながら放射線照射を行う治療です。これにより、がんへの治療効果を発揮しつつ、副作用リスクを必要最小限に抑え、病巣の形状にフィットする線量分布を実現し、抗腫瘍効果を高めつつ有害事象を低減することができます。

放射線科 参与 田中 良明



手術室を強化しました！

◎2024年に「手術支援ロボットを最新機種に更新しました」



◀これまで使用していた「ダビンチ Si システム」から「ダビンチ Xi システム」へ。

◎2024年に「内視鏡手術システム」を増設（3室→4室へ）

医師の増員により、診療体制を強化しました

「消化器内科」

当科は消化管・肝胆膵領域を専門とし、消化管癌については積極的に内視鏡治療を導入し、肝胆膵領域においては超音波内視鏡を用いた検査、診断も行っています。

難易度の高い病変はがんセンターなどの施設と連携を取り診療にあたります。肝臓専門医も在籍しており、ウイルス性肝疾患、代謝性肝疾患など、肝生検を含めた診断治療も可能です。特に癌診療に対しては急性期治療から緩和医療まで、切れ目のない医療を目標としています。

消化器内科主任部長 福本 顕史



「整形外科」

当科は近年、膝や股関節の「人工関節置換術」において県内有数の実績となりつつあり、症例数も急増しています。

患者さんへの体の負担や術後の痛みを抑える手術により翌日からリハビリが可能となり、早期復帰を叶えます。

歩行の痛みにお悩みの方がいらっしゃいましたら、ぜひ診療体制を充実させている当科へご紹介・ご相談ください。

整形外科主任部長 大幸 英至

